

平成 1 6 年度の科学技術関係予算の
概算要求に向けて

平成 1 5 年 7 月 2 3 日
科学技術政策担当大臣
総合科学技術会議有識者議員

1. 科学技術は、今日の社会・経済を支え、明日への投資となるもの

科学技術は重要な国家政策

[例] *The President's 2004 Budget* (アメリカ)

・科学技術はアメリカの経済競争力の源

・科学技術は、この50年以上に渡って、

アメリカにおける経済成長の大部分に寄与

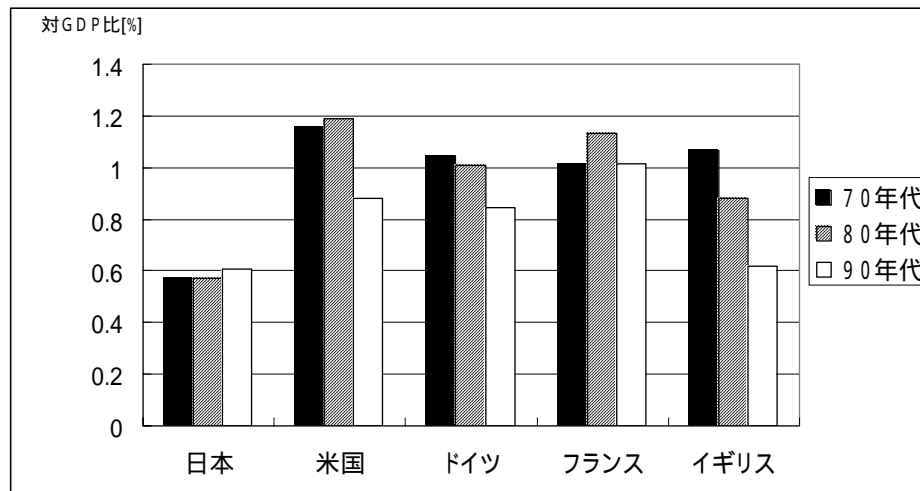
我が国では、基礎研究や重点4分野

を中心に科学技術を推進

科学技術の推進にはストックが重要

であり、継続的な投資が必要。

< 政府研究開発投資の対GDP比各国比較(10年毎の合計額概算) >



2. 科学技術の推進にも「選択と集中」が不可欠

優先順位付け (SABC) によるメリハリ

独立行政法人等における研究開発も把握・検討

平成16年度における概算要求で科学技術を強化・充実

(現下の経済への即効性と将来の産業基盤の強化: 一粒万倍)

平成16年度における施策の具体的展開例。

重点4分野

- ライフサイエンス : 様々な遺伝子や生体分子の相互作用を統合することで明らかになる「ゲノムネットワーク」研究
- 情報通信 : e-Japan戦略 の実現に向け、高度なソフトウェアとセキュリティを備えた応用駆動型「どこでもネットワークシステム」の開発実証・人材育成
- 環境 : 省エネルギー技術等の地球温暖化対策に資する研究開発(G8エビアン・サミットにおいて、日本は、環境と経済の両立に資する科学技術の重要性を指摘)
- ナノテクノロジー・材料 : ナノテクノロジーを活用した薬物送達システム(DDS:ドラッグデリバリーシステム)の研究開発

また、最先端の研究開発のための分析や計測の技術・機器等の研究開発が必要

分析、計測等のための先端機器の殆どは外国依存(DNA解析装置の97%は外国製)

経済活性化のための研究開発プロジェクトの推進

平成15年度予算及び平成14年度補正予算で、計1,300億円以上の新規プロジェクトを開始。国際競争力の強化と経済の活性化に向け、一層の強化・充実が必要。

- ・半導体上にきわめて微細な模様を描くための露光技術
- ・高性能(大容量・高出力)かつ低コストな燃料電池の開発
- ・衛星システムを利用し、高品質な移動体通信、測位情報の提供 等

地域科学技術の振興

公共事業依存型から科学技術駆動型への地域経済発展の流れを推進。地域の産業構造改革に直結した科学技術を重点的に推進。

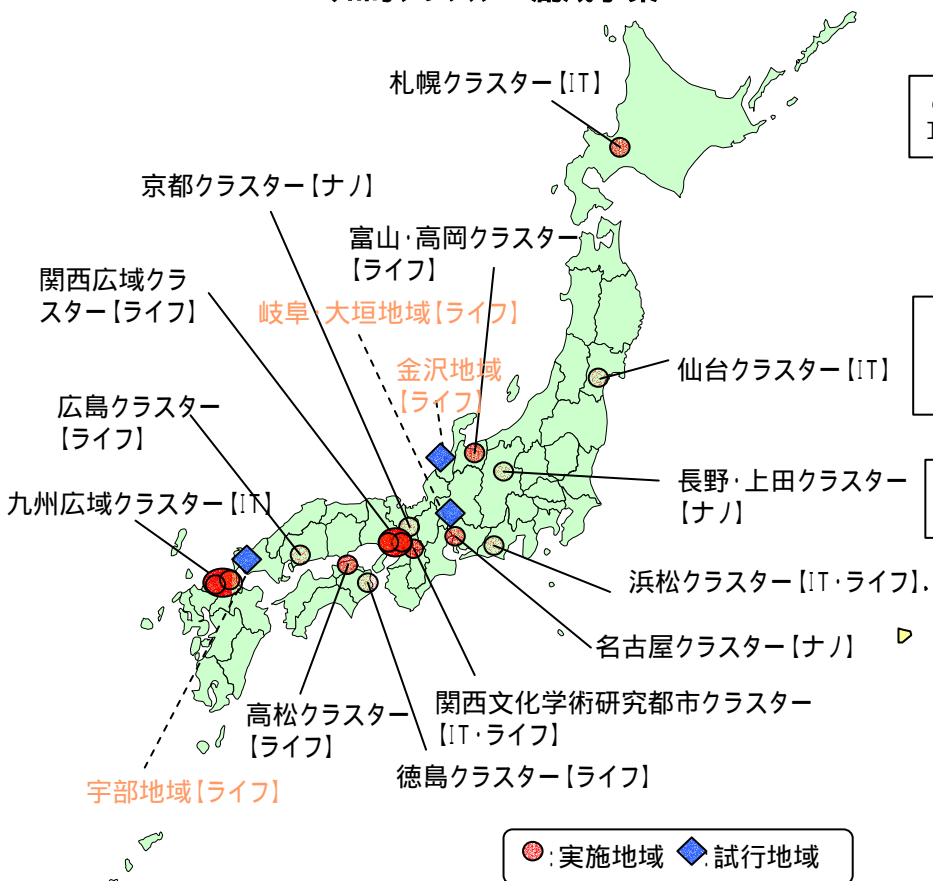
熊本県は、世界最大規模の半導体製造工場が所在(文部科学省と経済産業省が連携して支援)

地域における健康づくりシステムの開発により、年間一人あたり医療費約2万円の削減に成功した例もあり

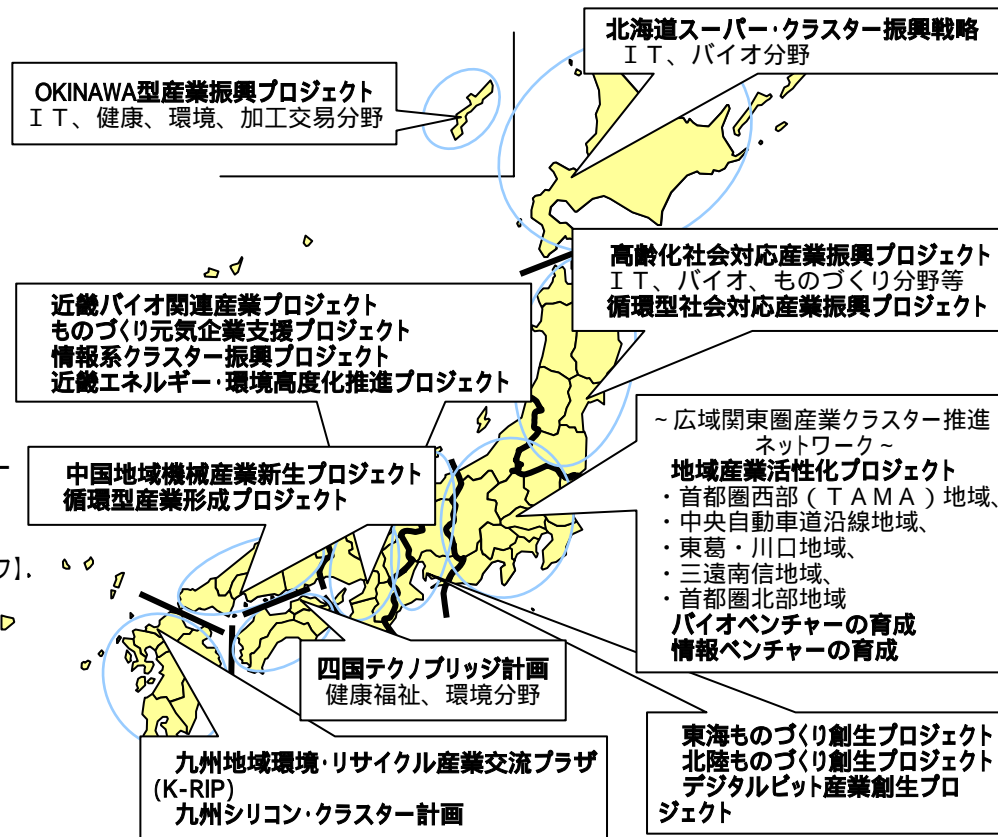
欧米においても、地域における科学技術の振興が活発化

(米国:東海岸やカリフォルニアなどにおけるバイオベンチャーの活発化 等)

< 知的クラスター創成事業 >



< 産業クラスター計画 >



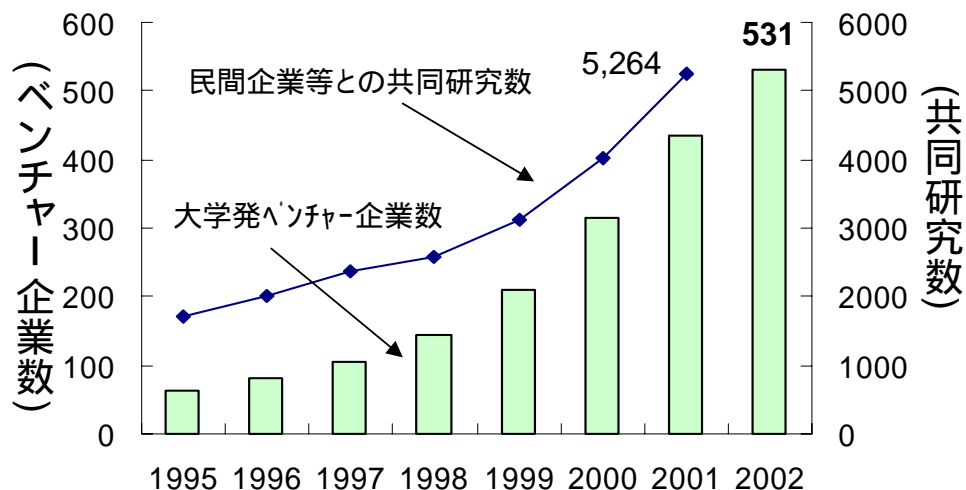
産学官連携の推進

共同研究等の推進や知的財産の戦略的活用など産学官連携全般を促進するとともに、研究開発型ベンチャーの創出と育成を重視。

大学発ベンチャー数はこの2、3年で急速に増加

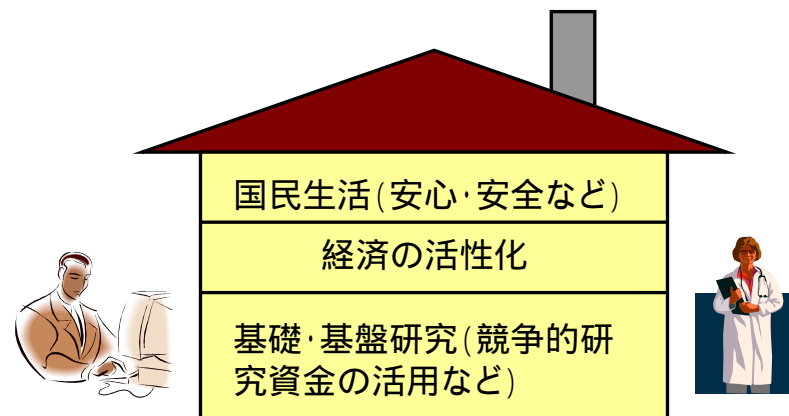
大学の特許出願件数と取得件数は着実に増加(H9 H12で出願は約4倍、取得は約2倍)

<「大学発ベンチャー」と「大学と民間企業との共同研究」の推移>



競争的研究資金の改革及び拡充

競争的研究資金は、競争的な環境の中で研究者の優れた発想や能力を発揮させ、世界最高水準の研究開発成果を創出することに大きく貢献。科学技術基本計画に基づき、制度改革を進めるとともに、平成13年度からの5年間で倍増を目指して、重点的に拡充。



平成12年度:約3,000億円 平成15年度:3,490億円 平成17年度:約6,000億円(目標)